

## 青森刑務所視察調査報告

2023年10月18日に、弁護士10名で、青森刑務所の視察調査を行ったので報告する。

### 1 施設について

1871年(明治4年)に仮監獄倉として現在青森市役所がある場所に開設され、1929年(昭和4年)に現在地に移転した。

同所の他に、八戸と弘前に拘置支所があったが、弘前については本年4月に廃止された。

現在地は市中心部から離れており、周囲には、隣接して青森県立図書館がある。周囲には田畑が広がり、遮るような建物がないため特に冬期は強い西風が強く、寒い。もっとも今年は酷暑で、9月に入ってもエアコンを使用していた。冬季には積雪が1メートル程度あり、屋外での運動はできない。

### 2 収容者について

収容定員は702人(受刑者658人、未決拘禁者44人。他に八戸支所に65名)であるところ、視察時の収容者数は、受刑者333人、未決8人と、収容率は半分程度、共同居住室(12畳)に収容されているのは50人未満で、多くが単独室に収容されている。また、仮釈放間近の受刑者を収容する開放寮(あすなろ寮。但し通常の舎房の一角を利用したもの)には、2人が収容されていた。なお、処遇上の昼夜間独居の扱いを受けている者が8人いる。

居室にはテレビが設置されており、余暇時間はチャンネル選択も含め自由に視聴可能である。他にカレンダー、爪楊枝、ゴミ箱が設置されている。

同所においては、昨年、新型コロナウイルスの大規模クラスターが発生し、234人が感染した。その際は一部の居住棟を感染者専用として対応し、すべて所内で完結させ、重症者は出なかったという。

同所の処遇指標は、懲役受刑者のうち犯罪傾向の進んでいる者(B指標)である。罪名では、窃盗38.6%、覚醒剤35.8%、詐欺8.2%、傷害3.6%となっており、受刑者の45%が現在又は元暴力団構成員である。

収容者の平均年齢は51.5歳(最高84歳、最低24歳)、平均刑期は3年(最高12年、最低6月)で、収容回数は平均で5回(最長23回)となっている。収容者の7割は関東管区からで、大半が東京拘置所からである。

令和4年度の仮釈放は、申請122人に対し許可122人、仮釈放率は59.2%で年々増加している。仮釈放される方が再犯が少ないところ、同所の2年以内の再犯率が23.7%とB指標の全国平均(21.2%)よりも高いこともあり、所として仮釈放を増やす努力をしているということであった。満期釈放者の中にも仮釈放となってよい者もいるが、引き受けの調整がつかず、やむなく満期釈放という例が多いという。

### 3 矯正処遇・各種支援について

刑務作業については、生産作業として、木工・洋裁・金属加工・パチスロ台の解体などを行っている。同所ならではのものとしては、青森の伝統工芸品である津軽塗のタンブラーや印鑑、ねぶた祭の浴衣、ホタテ漁のための網、リンゴ箱、リンゴなど果物の集荷時に用いるフルーツキャップの製作、バリ取りが行われている。そしてタンブラーやタンスなどはふるさと納税の返礼品にも利用されている。職業訓練としては、フォークリフト運転、車両整備などに加え、パソコンスキルの習得も年間20人を対象に行っている。津軽塗りの作業は1名のみが行っており、印章や印鑑ケース、茶碗などを作成しているが、塗り箸は民間業者との競合のため地元での販売はできないとんことであった。

余暇活動としてサッカーボールを使ったストラックアウトを行う一方で、体育館での活動中も、身体を動かさず、ストーブで暖を取るだけの者も少なくないとのことである。

また、「社会とつながる人とつながる青森刑務所」をモットーに、地域貢献や受刑者の社会復帰に注力しており、釈放後の就労を支援する就労支援フェスタ(令和2年度は9社48名参加、令和3、4年度はコロナで開催せず。今年度は開催予定)を実施しているほか、社会復帰支援における特別調整は、令和2年度6人、3年度11人、4年度10人について行った。

その他地域との関わりという面では、運動会への近隣住民や自治会の方々の招待に加え、矯正展と施設見学には地元を中心に活躍するアイドルグループのりんご娘も登場し、盛況であったとのことである。

### 4 医療について

医療スタッフは、常勤医 1 人、非常勤医2人(精神科)、外部2人(歯科)に、薬剤師、看護師、准看護師がいるということである。なお、令和4年度は、常勤医がおらず、週に2回外部から来所してもらっていた。

外部医療機関への通院は、令和4年度で100件、病院移送は13件ということである。

なお、認知症の疑いがある受刑者だけの工場があり、オムツを着用している者もいるとのことであった。

### 5 懲罰について

令和4年度の懲罰件数は、315件で、うち134件は作業拒否、16件はけんかとなっている。作業拒否の理由は、人間関係の悩みから、別の工場を希望するためというのが大半である。

### 6 青森刑務所視察委員会について

弁護士、医師、町会長、市役所の課長の4人で構成されている。提案箱は、各居

室棟の入口付近に設定されている(体育館にはなし)。

## 7 その他

生産作業の休憩時間中に、収容者が休憩室でお休みしているところも視察したが、皆さん小学生のように大声で懇談していたのが印象的であった。

収容者は、職員から名前(苗字)で呼ばれている。さん付けについては、現在検討しているということであった。

電話面会の実施件数は、令和4年度は101件、今年度が現時点で29件の利用があった。また、面会室の椅子は床に固定され、間仕切りには衝撃センサーと面会を中止させるロールカーテンが設定されており、翌日視察した函館少年刑務所(A 指標)とは異なる取扱いがなされていた。

以上